



KINYOSHA
環境報告書
2 0 0 4

目次

環境報告書の発行にあたって	1
特集 - 新御殿場工場	2
環境保全活動の歩み	3
金羊社の環境負荷	4
環境方針	5
環境マネジメントシステム	6
環境マネジメント組織	6
環境活動の計画と実績	7
省エネルギー	8
省資源	9
化学物質の削減	10
環境配慮型製品の開発、提供	11
法規制遵守状況	12
緊急事態への準備	13
環境監査	14
環境教育	15
地域貢献活動	15
アンケート	16



環境報告書2004について

(株)金羊社では、2002年の環境方針制定以降、環境マネジメントシステムに沿って環境保全活動を継続しております。この度、当社の環境保全活動の内容、実績を皆様にご報告すべく、「環境報告書2004」を作成いたしました。2003年6月に社内向けとして環境報告書の第1号を発行しておりますが、広く一般に公開するのは今回が初めてとなります。できるだけ分かりやすくすることを心がけましたが、まだまだ至らない点が多くあると思います。巻末のアンケート用紙にてどうぞお気軽にご意見、ご感想等をお聞かせいただければ幸いに存じます。

対象期間

2003年4月1日～2004年3月31日

対象範囲

株式会社 金羊社 全社（本社・御殿場工場）における環境保全活動について

環境報告書の発行にあたって



株式会社金羊社は、印刷を基盤とする情報加工業への展開の中で、お客様のコミュニケーションをサポートすることが業務の本質ととらえ、現在さまざまな改革に取り組んでおります。

そのなかで、企業市民の基本的責務として地球環境に大きな負荷をあたえる企業活動において、もてる知力・技術力・開発力を最大限に活用し、環境保全活動を推進するため本社をはじめ、昨秋の新御殿場工場の竣工に伴ない本年1月には御殿場工場も「ISO 14001」環境マネジメントシステムの登録を完了いたしました。

私たち印刷会社は大量の紙を使用します。そして弊社の宿命として印刷のみならず加工工程の終了後に排出する「不要用紙」の削減が大きな課題となってきます。出口のみならず、入り口から効率化を図るために「生産設計」時点での消去法による問題点の洗い出し、そして設計段階から計画的な検査を立案するなど印刷仕様の効率化と不良品の削減を図るため組織変更を実施しました。このことが結果的に最大の「省資源」対策となってきました。

これと同時に印刷現場では有機溶剤などの化学物質を代替置換により削減を図っています。また、社用車の低燃費車への切替えによるガソリンの削減など、エネルギーの省資源化も少しずつ効果を表してきております

このたび、第2回目の「環境報告書」の発行にあたり、現在までの環境改善活動の見直しを図るとともに環境方針の基、改めて明確な環境目的・目標を設定し環境負荷の低減にむけ活動を推進して参ります。

報告書の内容はまだ満足なものではございませんが、改善活動の新たなスタートと位置付け作成をいたしました。ぜひご一読をいただきなお一層のご指導・ご支援を賜れば幸甚に存じます。

平成16年6月



代表取締役 社長

浅野 健

特集 - 新御殿場工場

当社では、旧御殿場工場の老朽化と、お客様の品質要求にお応えするため、2003年7月に「新御殿場工場」が完成いたしました。建設にあたっては、お客様にご満足いただける高い品質と、オンデマンド性（即時対応性）を追求し、その中に様々な環境に対する配慮を盛り込んでいます。

住所：静岡県御殿場市神場二丁目1番地



周辺環境への配慮

1. 工場廃液の下水への流出ゼロ
生産工程から排出される廃液はすべて自動で廃液タンクへ送り込まれ、廃棄物業者へ引き渡しているため、下水への流出はゼロです。
2. 最新の浄化槽を設置
工場廃液以外の生活排水についても、浄化槽で浄化した上で排出しています。
3. 騒音対策
工場内の機械類の騒音はシャットアウトされ、敷地境界線上ではほとんど聞こえません。測定値も法規制値を大幅にクリアしています。



省エネルギー

1. 重油使用量の削減
工場内の空調には温水ボイラーを用いていますが、建物の保温性がよくなったことやボイラー自体の燃焼効率がよくなったため使用される重油は旧工場と比較しておよそ3分の1まで減少しました。（11～1月の冬期比較）
2. フォークリフトをすべて電動式へ
使用しているフォークリフトをすべて燃料式から電動式へ移行しました。これにより、ガソリンの使用量を抑え、さらに駆動音が小さいため騒音を発生しません。



作業環境

印刷・加工フロアの温度・湿度を一定に保つ温湿度管理に加え、作業環境を清潔に保つため、集塵機等の空気清浄機を導入し、工場フロア内の空気の汚れ具合を管理しています。空気中の塵や臭気を除去することにより作業者の健康に配慮しています。

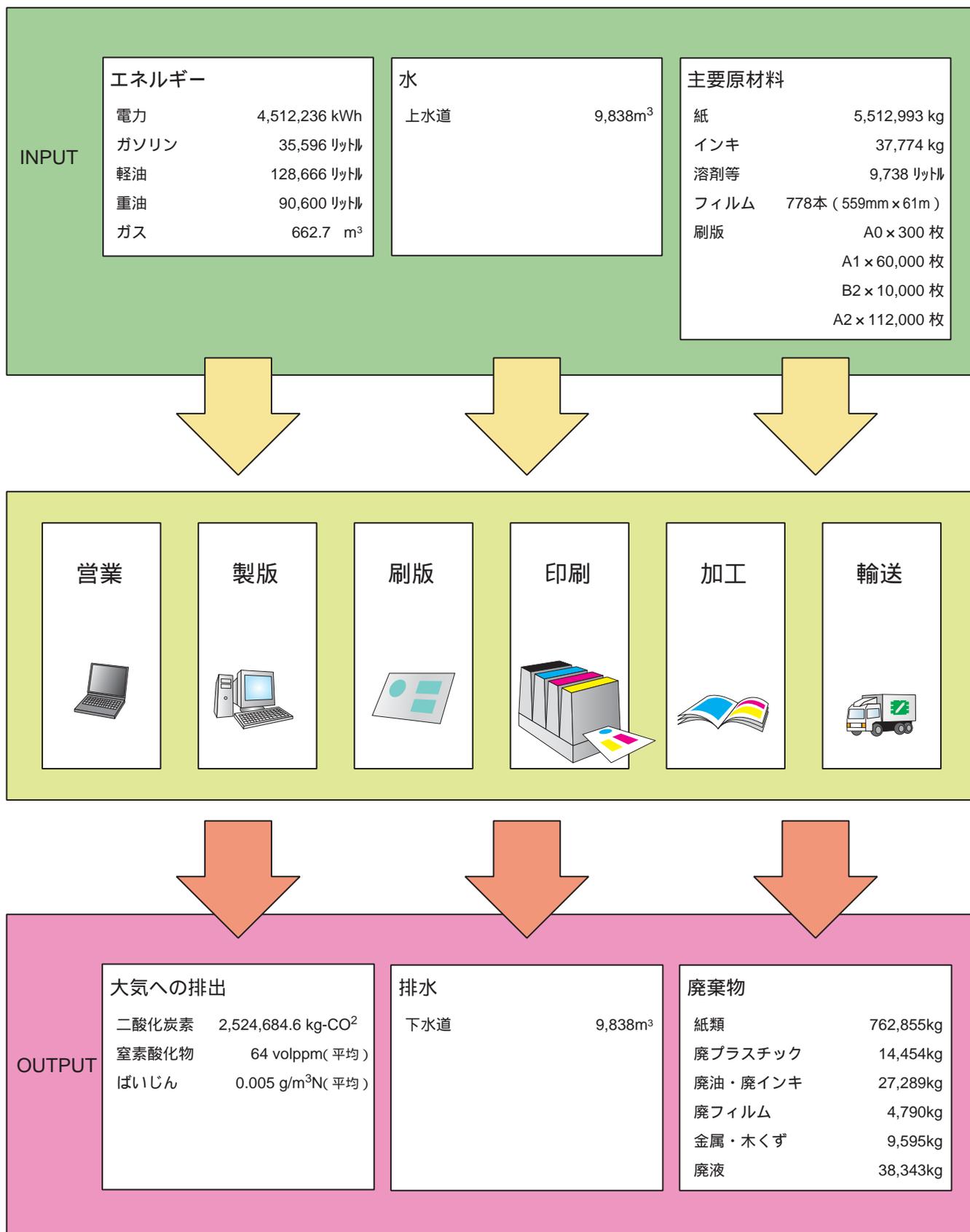


環境保全活動の歩み

年	内容
2001	外部監査法人による、本社および御殿場工場の環境状況視察。初期環境レビュー実施。(2~3月)
	本社に環境委員会を設置。(10月)
	環境側面洗出しを実施。(10~12月)
2002	環境方針制定。(1月)
	リコーグループ様 環境マネジメントシステム予備審査。(2月)
	リコーグループ様 環境マネジメントシステム本審査。(3月)
	全従業員に対し環境自覚教育実施。(5月)
	管理職に対しISO14001規格説明および内部監査員セミナー実施。(6月)
	環境マニュアル第1版 発行。(6月)
	本社にて内部監査実施。(6月)
	本社にてISO14001第1段階登録審査 受審。(日本規格協会)(7月)
	環境マニュアル第2版 発行。(10月)
本社にて内部監査実施。(10月)	
2003	本社にてISO14001第2段階登録審査 受審。(日本規格協会)(12月)
	ISO14001登録決定、登録証交付。(本社のみ)(1月)
	環境マニュアル第3版 発行。(1月)
	本社にて内部監査実施。(6~9月)
	環境マニュアル第4版 発行。(8月)
	御殿場工場移転後、環境側面の見直しを実施。(9~11月)
	環境マニュアル第5版 発行。(11月)
御殿場工場にて内部監査実施。(12~翌1月)	
2004	ISO14001第1回定期維持審査 受審。(日本規格協会) 同時に登録範囲拡大審査(御殿場工場)実施。(1月)
	御殿場工場までの拡大登録決定 登録証交付。(2月)

金羊社の環境負荷

当社の営業～生産工程～輸送までの環境負荷を算出しました。やはり印刷会社という特性から紙の使用量が目立つところですが、当社の製品はCDやDVD等のパッケージ関連が多く、消耗品ではないのでお客様（消費者）のところで廃棄されることは多くありません。また、生産工程で発生する不用な紙類はほぼすべてリサイクルされています。



株式会社 金羊社 環境方針

当社は、「いかなる時も社会とマーケットから信頼され、誇りと創意と感謝に溢れた人間集団であり続けたい」との経営理念のもと、かけがえのない地球環境を守り、育むことを大切に、長年培った印刷技術を基盤とする情報加工業への展開の中で、環境に配慮する良き企業市民として行動します。

1. 当社は、事業活動において環境への影響を認識し、その負荷低減に向け次に代表される項目を考慮した継続的な改善活動を行う。
 - a) 省エネルギー
 - b) 廃棄物の削減 (Reduce)、再使用 (Reuse) 及びリサイクル (Recycle) 推進による省資源
 - c) 化学物質の使用削減
 - d) 環境配慮型製品の開発、提供
2. 法規制・条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守すると共に、必要に応じ自主規制基準を設け、汚染予防をはかる。
3. 自らの環境目的・目標を設定し、定期的に内部監査・マネジメントレビューを実施、環境管理システムの確立と維持向上に努める。
4. 環境教育、社内広報活動を通じすべての社員の意識向上を図ると共に、一人ひとりが社会の一員として責任をもって環境保全活動を遂行できるよう、啓発と支援を行う。
5. この方針は、文書化し、全社員に配布・周知すると共に、広く社外にも公開する。

平成15年4月16日

環境マネジメントシステム

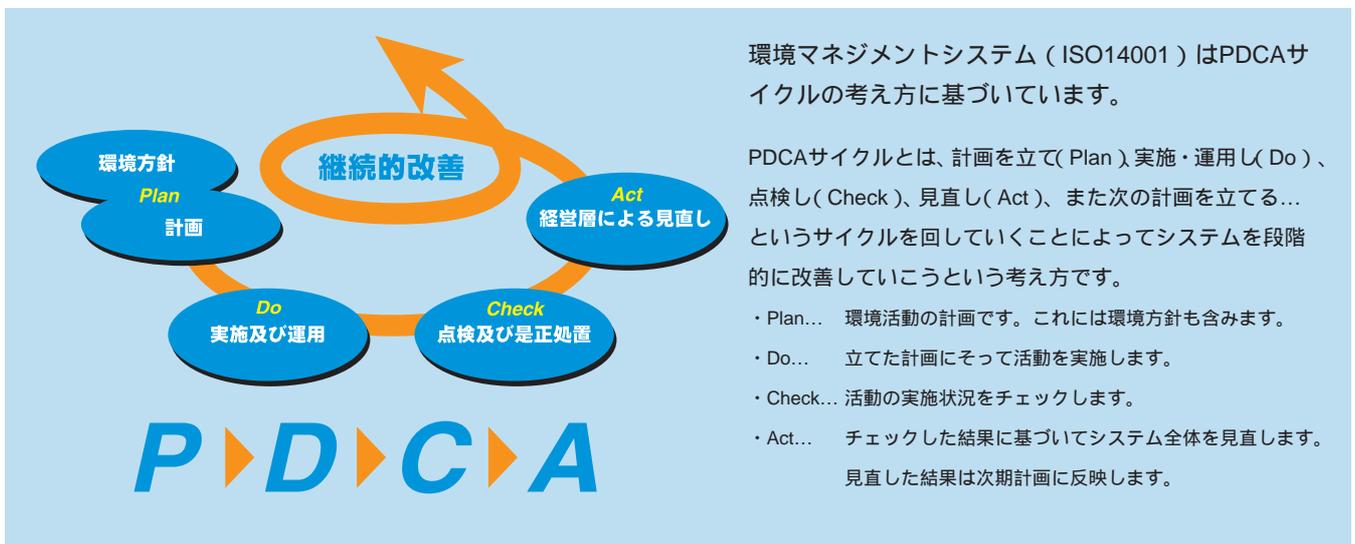
当社では、2002年1月に環境方針を制定して以降、JIS Q 14001 / ISO14001に基づいて環境マネジメントシステムを構築し、組織として環境を守るための活動をおこなっております。

2003年1月に本社においてISO14001の登録をいたしました。また、御殿場工場においても、2003年8月の工場移転後、工場内の環境マネジメントシステムの見直しを実施し、2004年1月のISO14001維持審査時に登録範囲を御殿場工場に拡大いたしました。これにより、本社・御殿場工場を含む全社における登録が完了いたしました。

環境マネジメントシステムとは？

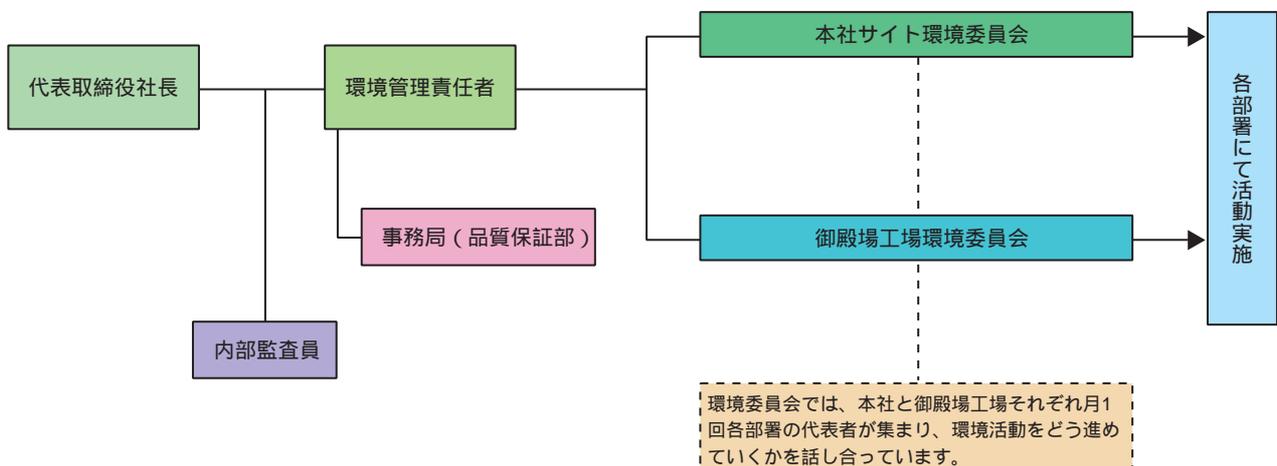
JIS Q 14001では次のように定義しています。「全体的なマネジメントシステムの一部で、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しかつ維持するための、組織の体制、計画活動、責任、慣行、手順、プロセス及び資源を含むもの。」

組織として環境問題に取り組むという場合、まずその組織内で仕組みをつくる必要があります。その仕組み、すなわち組織が環境問題に取り組むための仕組みのことを環境マネジメントシステムといいます。また、JIS Q 14001 / ISO14001とは、適切な環境マネジメントシステムをつくるための設計書のようなものです。



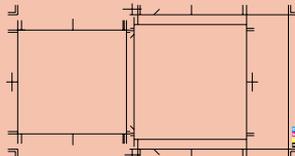
環境マネジメント組織

最高経営層である社長を頂点に、環境管理責任者、環境委員会を中心とした体制をしいています。



環境活動の計画と実績

環境方針として「当社は、事業活動において環境への影響を認識し、その負荷低減に向け次に代表される項目を考慮した継続的な改善活動を行う。」そしてその下に具体的な項目として4つを掲げ取り組んでいくことを宣言しています。

<p>a) 省エネルギー 電力や燃料等のエネルギー使用量を減らすことで、二酸化炭素の排出を減らしています。</p> 	<p>b) 廃棄物の削減(Reduce)、再使用(Reuse)及びリサイクル(Recycle)推進による省資源 3R(Reduce、Reuse、Recycle)を推進することにより廃棄物を減らし、省資源に努めています。</p> 
<p>c) 化学物質の使用削減 生産工程で使用している化学物質(有機溶剤、危険物等)を減らし、環境負荷の低減および作業者の健康に配慮しています。</p> 	<p>d) 環境配慮型製品の開発、提供 環境負荷を減らすよう開発された「環境配慮型製品」を開発し、お客様にご提供しています。</p> 

方針	項目		目標	結果	自己評価
a) 省エネルギー	電力使用量削減	本社	2001年度比9%削減	20.4%削減	
		御殿場工場	OA機器使用基準、照明設備使用基準、空調設備使用基準を順守する。()	良好	
	ガソリン使用量削減	本社	2001年度比18%削減	29.9%削減	
	軽油使用量削減	本社	2001年度比5%削減	5.7%削減	
b) 3R推進による省資源	廃棄物排出量削減(有価物除く)	本社	2001年度比9%削減	14.8%削減	
		御殿場工場	2001年度比3%削減	7.95%増加	×
	グリーン購入の推進(事務用品を環境に配慮したものに代替する。)	本社	5種類代替する。	5種類代替	
c) 化学物質の使用削減	有機溶剤等削減	本社	使用量前年比10%削減	21.0%増加	×
		御殿場工場	種類を6種類削減する。	5種類削減	
d) 環境配慮型製品の開発、提供	年度全体売上高のうち、環境配慮型製品の売上高が占める割合を伸ばす。	本社	年度全体売上高中6.5%	3.0%増加	×
	製品の環境負荷を減らすための技術情報を社内に提供する。	本社	3件提供	2件提供	×

御殿場工場では、昨年8月に新工場に移転して日が浅く、電力についての詳細なデータが足りないため、具体的な数値目標は設定しておりません。今年度のデータを基に次年度より設定する予定です。

省エネルギー

金羊社で使用している主なエネルギーには、電力、ガソリン、軽油、重油、都市ガスがあります。省エネルギーおよび地球温暖化対策として、電力、ガソリン、軽油の使用量削減を環境目標に掲げて活動を行っております。（ ）

その結果、2001年度以降の二酸化炭素（CO₂）排出量は、本社では減少してきています。（御殿場工場では2003年度に増加してしまい、全社でのCO₂排出量は増加となります。これは、2003年8月に新工場に移転した際に、工場の規模を拡大しているため電力使用量が増加したことが影響しています。）

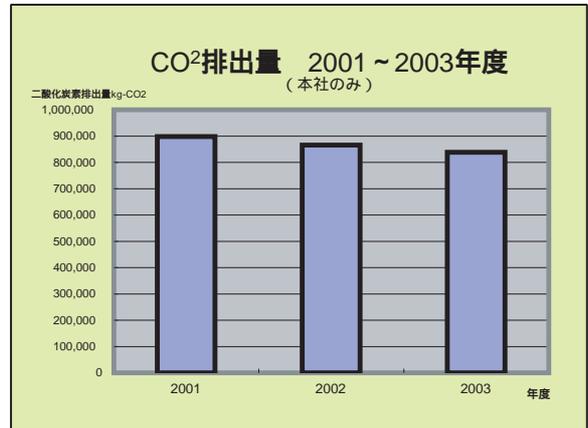
重油使用量については、製品の品質確保のため工場内の温湿度が一定になるよう自動調整されていることから、意図的に減らすことができず、目標には掲げておりません。しかし、温水ボイラーの燃焼効率が前工場よりも格段に良いため、重油使用量は減少しています。



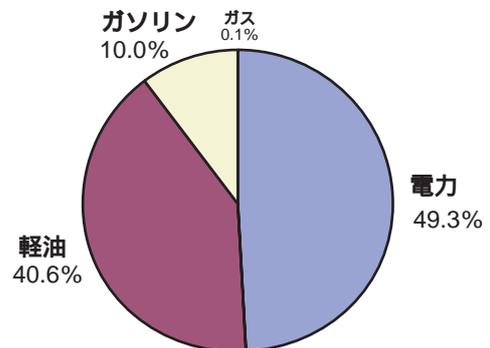
ひもを付けこまめに消灯しています

当社で使用しているエネルギーのうち、最も多いものは電力です。電力については、まず身近なところから活動を行っていかうという考えから、社内でOA機器、照明、空調の使用基準を設け、一人一人が省エネ活動を続けています。その結果、本社では電力使用量を2001年度と比べて約20.4%削減することができました。

また、ガソリン、軽油についても、エコドライブの推進によって使用量が減ってきています。（ガソリン：29.9%減、軽油：5.7%減。いずれも2001年度比）



エネルギー使用量内訳 (本社のみ)



三つの「R」を实践

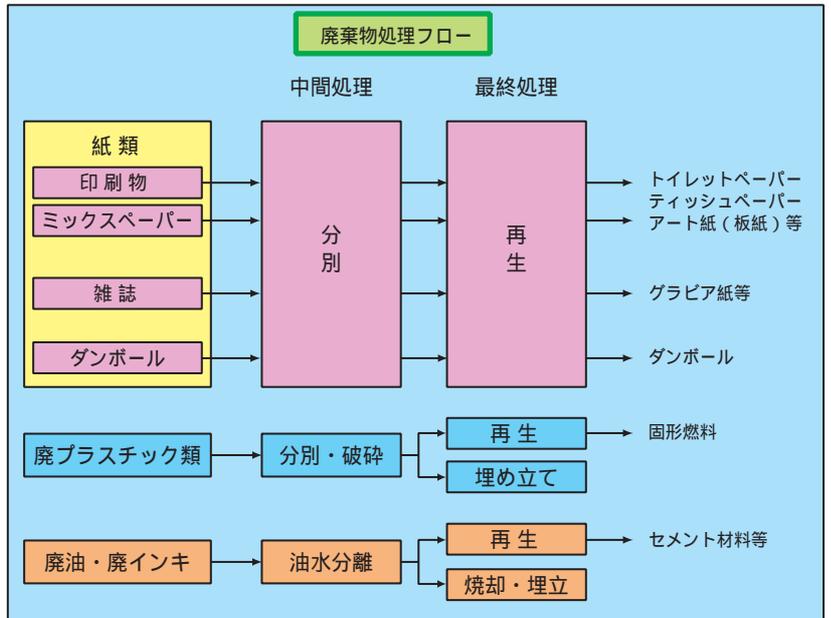
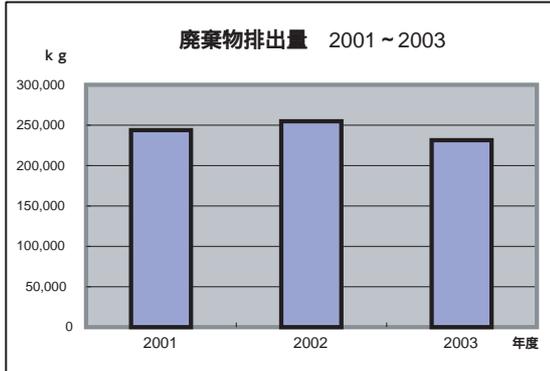
環境ISOの登録を取得する以前は、環境問題は国レベルや大企業レベルで考え対処するもので自分には遠い存在の話だと勝手に決めていました。我々一人一人の環境に対する行動(付加)がどれだけ大変なことなのか、環境ISO取得準備の中で認識できました。小さな努力の積み重ねが如何に大切なのか理解はできていましたが、やっと自然の行動の中で無意識に三つの「R」を实践していることに気が付きました。「REDUCE」のことを考えSOYインキの使用を提案し再生紙に印刷することをお得意先に薦めています。「REUSE」のために不要になったファイルや文具を一定の個所に集約し必要な人が再使用したり、コピー済みの裏白を集約し極力裏紙を使用しています。「RECYCLE」の



ために日々のごみ箱に入れる段階から分別を实践しています。こんなことが家庭の中でもごく自然に実践されるよう行動が変革しました。
営業本部 部長
津留見 稔

省資源

環境方針に「廃棄物の削減（Reduce）、再使用（Reuse）及びリサイクル（Recycle）推進による省資源」を掲げています。Reduce、Reuse、Recycle、つまり3R活動により、省資源に努めています。



Reduce (廃棄物の削減)

当社から排出される廃棄物には、紙類、廃プラスチック、廃油、廃インキ等がありますが、やはり印刷会社という特性から、紙類が大多数を占めています。紙類にも有価物と無価物がありますが、有価物は廃棄物ではなく資源として買い取ってもらう形になっていますので、廃棄物には含めていません。よって、有価物と無価物を正しく分別することが廃棄物の削減につながる、という考えのもと、分別方法の勉強会を行ったり、廃棄物の集積所で環境委員が分別の指導をしたり等の活動を行っています。



Reuse (再使用)

使用済のものを繰り返し使用することによって廃棄物の削減に努めています。例えば、工場内で使用しているウエス（機械の汚れを拭く雑巾のようなもの）は、使用済のものをクリーニング業者で洗浄してもらい、繰り返し使用しています。

Recycle (再資源化)

当社の廃棄物の中で大多数を占める紙類については、すべてリサイクル業者へ引き渡し、ほぼ100%リサイクルされています。

グリーン購入

社内で使用する事務用品についても、エコマーク認定商品等、環境に配慮されたものを使う、という活動も行っています。

グリーン購入について

社内で使用する事務用品については環境に配慮した品を選ぶという活動を昨年行ってきて、現在7点をリストにあげています。使用済みのテプラカートリッジを回収するようになり、現在までに150コの回収もできました。

今は、事務用品のカatalogを見ればその品が環境に配慮されているのかも簡単にわかるので、注文する前に少し時間をさいて、各自がチェックしたらもっとより充実した活動になるのではないかと思います。



総務部 主任
角池美香

化学物質の削減

製造工程で使用されている化学物質について、現在使用中の化学物質よりも環境に対する影響の少ないものに替える活動を実施し化学物質の削減に取り組んでいます。



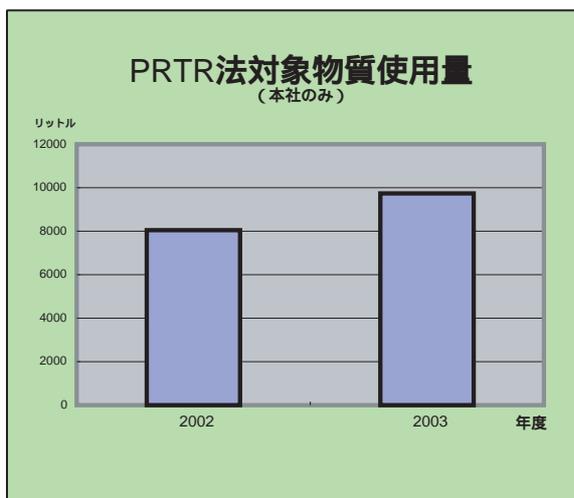
PRTR法への対応

1999年12月に施行されたPRTR法（下記参照）によって、化学物質の管理が強化されました。当社の製造工程においてもPRTR法第一種指定化学物質を数種類使用しており、その取扱量および排出量を管理し、削減に取り組んでいます。

PRTR法とは？

正式名称「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進に関する法律」（Pollution, Release and Transfer Registers）。

組織が化学物質のインプットとアウトプットについて系統的に情報収集を行い、届出データはファイル化され、国は個別事業所データを開示するといったように包括的な管理を行うことにより、環境影響を削減することを目的として作られました。この法律の中で“第一種指定化学物質”として354種類の化学物質が指定されており、その物質の年間取扱量が1トン以上である場合、その物質の環境への排出量（大気、水質、土壌）及び廃棄物に含まれる量を把握し、都道府県経由で国へ届出なければなりません。



ジクロロメタンの全廃

昨今、塩素系有機化合物の、発ガン性など人の健康への影響が問題視されています。当社の製造工程においても、その塩素系有機化合物のうちの一つである“ジクロロメタン”を使用しておりましたが、2004年3月までに全廃する計画を打ち出し、人または環境に与える影響がより少ないものに代替いたしました。その結果、現在ではジクロロメタンを使用しておりません。

ジクロロメタンとは？

別名「ジクロロメタン」「塩化メチレン」「二塩化メタン」等。発ガン性等の人の健康に与える影響の大きさが問題となっている塩素系有機化合物（クロロホルム等）のうちの一つで、当社では主に印刷機に付着したインキを洗い落とすための洗浄剤として使用されていました。PRTR法でも第一種指定化学物質に指定されており、第2種有機溶剤（労働安全衛生法）にも指定されています。無色透明の揮発性の液体で、クロロホルムのような臭いがします。大量に吸入すると麻酔作用があります。

ジクロロメタン全廃

ジクロロメタンは主にインキの洗浄剤として使用していました。その洗浄力の高さから、効率良く作業ができる為、作業者の中には、全廃には少し抵抗を感じた人もいました。

しかし、人体、環境への様々な悪影響を理解し、全廃に取り組みました。資材購入業者の協力を得て、環境関連の法規制をはじめ消防法にも非該当でジクロロメタン同等の洗浄力を有する洗浄剤を調査、試用した結果、非塩素系の代替溶剤を採用し、ジクロロメタンは全廃となりました。また、ジクロロメタン

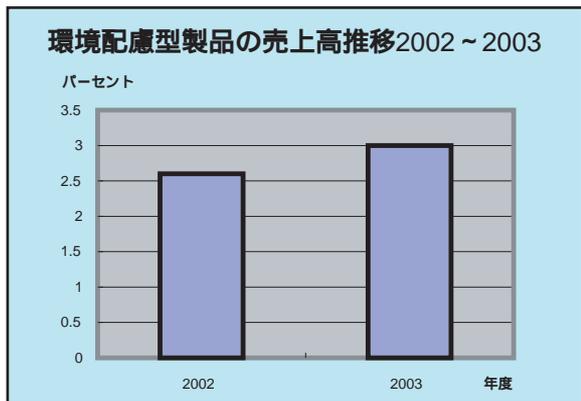


以外の塩素系有機溶剤についても、全て代替溶剤に切り替え、現在は一切使用していません。

製版部 校正課 課長
佐々木義雄

環境配慮型製品の開発、提供

リサイクルや省資源などの観点から環境に配慮してつくられた製品を「環境配慮型製品」と称して開発・ご提供していこうという活動を実施しています。2003年度は年度全体売上高のうち、環境配慮型製品は3.0%でした。目標（6.5%）には届きませんでした。2002年度、2003年度と着実に採用していただいています。



当社の環境配慮型製品は右に挙げた製品のみではなく、日々開発が行われています。また、今後は開発した製品のみではなく、大豆油インキや再生紙等の環境配慮材料の使用についても環境配慮型製品の対象に含め、さらなる展開を図ってまいります。

商品開発について

今、世の中が注目する再生紙や生分解素材、加工。商品開発部でも日々勉強しながら、現在特許出願中製品での使用を試みています。

新素材などありましたら、是非青山オフィス商品開発部までご一報下さい。

お得意先に満足して頂き、そしてエンドユーザーに大切に持ち続けて頂ける製品作りこそが、最高の環境配慮型製品なのかもしれません。



商品開発部 主任 塩谷みな

当社環境配慮型製品の紹介

POPMANBOO

ポップマンボウ
リサイクル可能なPP素材を使用したDVD・CD用ケース



特許取得済

DVDIGIPAK

DV デジパック
紙製のジャケットに貼って使用するDVD専用トレイ



ロイヤリティ契約

DVDARTS

DV ダーツ
紙製のジャケットに貼って使用するディスクを簡単に取り外せるpopupクランプ付きCD・DVD用トレイ



特許取得済

C-Pac

C パック
オール紙製のCD用ジャケット



特許申請中

パノラマジャケット

パノラマジャケット
1枚のつながった絵柄を可能にした紙製ジャケット



特許取得済

環境法規制の遵守状況

大気

場所、設備	項目	基準	測定値	評価
御殿場工場 温水ボイラー	窒素酸化物の濃度 (volppm)		67	
	ばいじんの濃度 (g/m ³ n)		0.005以下	
御殿場工場 温水ボイラー	窒素酸化物		61	
	ばいじん		0.005以下	

御殿場工場 平成16年1月調べ

御殿場工場の温水ボイラーは規模が小さいため大気汚染防止法の「ばい煙発生施設」には該当しませんが、定期的に測定を実施し、異常な値が出ていないかを監視しています。

表中の基準値は「ばい煙発生施設」に該当すると仮定した場合の参考値です。

水質

場所、設備	項目	基準	測定値	評価
本社からの排水 (主に生活排水)	水素イオン濃度 (pH)	5.7~8.7	7.3	
	沃素消費量	220mg/l未満	1以下	
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	300mg/l未満	15	
	浮遊物質量 (SS)	300mg/l未満	11	
御殿場工場からの排水 (主に生活排水)	水素イオン濃度 (pH)	5.8~8.6	7.7	
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	日間平均 60mg/l以下	調整中	
	化学的酸素要求量 (COD)	日間平均 120mg/l以下	19	
	浮遊物質量 (SS)	日間平均 80mg/l以下	6	
	ジクロロメタン濃度	0.2mg/l以下	0.002以下	

本社 平成16年3月 御殿場工場 平成16年1月調べ

当社では水質汚濁防止法の特定施設を保有しているため、水質管理責任者を選任し、定期的に水質検査を実施しています。ただ、特定施設から出る廃液はすべて専門業者に引き取ってもらっているため、下水に排出されるのは生活排水のみです。

御殿場工場では水質汚濁防止法の特定施設は保有しておりませんが、基準値を超えないよう水質検査を行い監視しています。

本社と同様、生産工程で排出される廃液等はすべて専門業者に引き取ってもらっているため、排水はすべて生活排水ですが、浄化槽を設置し、浄化してから排出しています。

騒音、振動

場所、設備	項目	基準	測定値	基準との差
本社 敷地境界線上	騒音 朝 (6:00~8:00)	55 dB		
	騒音 昼 (8:00~20:00)	60 dB	62 53	+2 -7
	騒音 夕 (20:00~23:00)	55 dB	51 47	-4 -8
	騒音 夜 (23:00~6:00)	50 dB		
	振動 昼 (8:00~20:00)	65 dB	29 33	-36 -32
	振動 夜 (20:00~8:00)	60 dB	26 30	-34 -30
	御殿場工場 敷地境界線上	騒音 朝 (6:00~8:00)	65 dB	43 52
騒音 昼 (8:00~18:00)		70 dB	46 55	-24 -15
騒音 夕 (18:00~22:00)		65 dB	45 55	-20 -10
騒音 夜 (22:00~6:00)		60 dB	43 50	-17 -10
振動 昼 (8:00~20:00)		70 dB	16 30	-54 -40
振動 夜 (20:00~8:00)		65 dB	15 24	-50 -41

本社 平成15年12月 御殿場工場 平成15年12月調べ

当社および御殿場工場で保有する印刷機は騒音規制法・振動規制法の特定施設に該当します。本社の場合は測定値が印刷機の騒音・振動を測定した値ですが、防音効果により基準値内におさまっています。本社の測定値は加湿器の室外機の騒音・振動を測定した値ですが、昼の時間帯で基準値を超えてしまっています。ただ、この室外機の仕様では54dBであり、基準値内です。車道沿い、線路沿いという設置環境によって基準値を上回ってしまったものと思われます。

御殿場工場には9台の印刷機を設置していますが、防音効果により敷地境界線ではほとんど工場内の音は聞こえないようになっています。それは測定結果にも現れており、24時間体制での稼動にも関わらず大幅に基準値をクリアしています。

緊急事態への準備

当社では、“緊急事態”を次のように定義しています。

「火災・地震・風水害等の災害および設備の故障・誤操作等により環境影響を与える恐れのある事態」

つまり、災害や設備の故障等が発生した場合、環境に対して特に大きな悪影響を与えてしまう恐れがある事態を緊急事態と呼んでいます。こういった災害や設備の故障等が発生してしまった場合、環境に与える悪影響を抑えるための手順を決め、訓練を行っています。



防災訓練

毎年定期的に、消防署より講師をお招きし、防災訓練を実施しています。

具体的には、火災を想定し、火が小さいうちに初期消火を行うため消火器の扱い方を習得したり、人命救助の練習をしたりしています。



汚染の予防

当社の緊急事態には、主に生産工程で使用する液体類の流出等があり、廃液タンクからの流出や、有機溶剤・危険物等の流出、重油、廃油等の流出も想定しています。いずれも、万が一流出してしまった場合、土壌汚染や水質汚濁の原因となるものです。それらに対する予防のため、対応手順書を作成し、速やかに対処できるよう訓練を行っています。また、定期的に設備を点検し、異常がないかどうかをチェックしています。

2004年4月現在、こういった緊急事態は発生しておりませんが、万が一に備えて訓練や点検を定期的に行っています。また、必要に応じて設備の改善も図っていく予定です。



環境監査

環境マネジメントシステムの仕組みが正常に機能しているかどうか、第三者機関による審査および社内の内部監査員による内部監査を定期的の実施し、環境マネジメントシステムの機能向上に努めています。

第三者審査(外部機関によるISO14001審査)

ISO14001登録後、毎年“定期維持審査”が行われています。外部の審査登録機関により、環境マネジメントシステムが有効に機能しているか？どこをどう改善すればより効果的か？といった観点で審査が行われます。その結果、指摘された事項に対応することにより、環境マネジメントシステムの発展につながります。



内部監査

現在、社内に内部監査員が61名おり、環境管理責任者の指名を受けて、毎年各部署毎に内部監査を実施しています。当然、監査員が自分の部署を監査するということの無いように振り分けられ、各部署年一回程度監査が行われます。内部監査においても外部審査と同様に、環境マネジメントシステムの有効性や改善の余地等について話し合わせ、システムの向上を目指しています。

環境教育

環境保全活動に取り組むためには、環境問題についての正しい知識が必要です。当社では、環境問題の知識を全従業員で共有するため、「環境自覚教育」と称して様々な教育を行っています。また、東京都主催の埋立処分場見学会にも、現在までに数回参加しています。



全従業員に環境方針カードを配布し、当社の環境に対する取組みを周知しています。

講習会

環境問題についての基礎知識の講習会を全従業員に対して実施しました。また、新入社員や中途採用者に対しても、導入教育として講習を行っています。

社内メールマガジン

月1回程度、社内メールにて環境に関する情報のメールマガジンを発行しています。その時期の話題やニュース、日常の省エネ情報等を提供しています。

環境ビデオの貸出し

環境教育に役立つと思われるビデオを社内に限り貸出ししています。各部署での勉強会等に使用されています。

地域貢献活動

東京大田区の本社では、従業員が毎日通勤で通っている道路を、自分達の手できれいにしようという運動を、毎月1回「クリーンデー」と称して毎回十名程度で実施しています。駅から会社迄の歩きタバコを禁止し、道路沿いのゴミ拾いを実施する事で従業員の環境への意識が高まるため、環境自覚教育の一環としても有効です。

また、当社の社長が会長を務める「雪谷法人会」の活動にもボランティアで参加しています。2003年10月の多摩川河川敷のゴミ拾いには、当社から13名参加させていただきました。



こういった地域環境への貢献は、まだ事例が多くはありませんが、今後も本社、御殿場工場ともに積極的に活動していきます。

会社概要

社名	株式会社 金羊社（きんようしゃ）
代表取締役社長	浅野 健
資本金	1億6千7百万円
従業員数	308人
創立年月日	1926年（大正15年）9月30日
業務概要	オフセット印刷、文字・画像処理、デジタル製版、プロセス製版、製本、紙器加工、マルチメディア製品の企画・製造及び販売
ホームページ	http://www.kinyosha.co.jp/

本社

所在地	〒146-8577 東京都大田区鷺の木二丁目8番4号
TEL	03-3750-2101（代表）
FAX	03-5482-7033
敷地面積	2,516㎡
建物面積	3,400㎡
従業員数	216人

御殿場工場

所在地	〒412-0047 静岡県御殿場市神場二丁目1番地
TEL	0550-89-3434（代表）
FAX	0550-89-5698
敷地面積	20,082.34㎡
建物面積	6,965.71㎡
従業員数	92人

青山オフィス

所在地	〒107-0062 東京都港区南青山五丁目7番17号 小原流会館4F
TEL	03-5778-3462（DMP部） 03-5778-3463（商品開発部）
FAX	03-5778-6317（共通）



株式会社 金羊社 環境報告書2004

2004年7月発行

お問い合わせ



株式会社 金羊社

品質保証部

〒146-8577 東京都大田区鵜の木二丁目 8 番 4 号

TEL : 03-3750-2867

FAX : 03-3750-2088

ホームページ : <http://www.kinyosha.co.jp/>

